2．その他

1）小委員会（仮称）設置

活火山WGの会合のみで膨大な資料の検討と活火山の選定を短時間で完了させることは困難なので、地質情報の専門家からなる小人数の会を設置し、集中的に原案の作成を行いたいとの提案があり、趣旨は、了承された。

2）現在の活火山との一体性

・これまでになされた活火山選定の論点で現在の活火山を検討し、追加される火山との一体性を保つ必要がある。

・百数十山の均質な比較表を作ることは、容易ではないが、必要性はある。

火山噴火予知連絡会幹事会　議事録

日　時：平成12年2月4日（金）12時～13時

場　所：気象庁第2会議室

出席者：幹　　事：井田、岡田(弘)、浜口、藤井(敏)、渡辺、藤井(直)、岡山、早川(代理：文部省)、小宮

　　事 務 局：三上、佐久間

1．事務局からの報告

1）委員の出欠、臨時委員、オブザーバー等の紹介。

2）岩手山についての拡大幹事会(11年11月16日)について

・11年11月12日に振幅の大きな微動が発生したことから、16日に盛岡地方気象台で臨時の拡大幹事会を開催した。検討結果は見解としてとりまとめ発表した。

3)「火山活動度のレベル化に伴う防災対応のガイドライン作成に関する調査」の経過について

・この調査に関して、学識経験者数人と地方自治体として東京都と鹿児島市及び共同で調査を行っている国土庁と自治省消防庁と気象庁で構成する委員会を1月19日に開催。5段階のレベル化を考えているが、レベル4の上に更に大規模災害についてレベルを設けるべきではないかという議論があった。それを踏まえて防災対応ガイドライン試案というものを作成中。3月上旬頃の次の委員会で提示し検討する。

4）噴火予知連絡会会報の原稿提出要領の改正について

・現在既にご協力をいただいている原稿作成の方法を追認するための改正。改正点は次の3点。ワープロ作成でよい。標題、報告者名は英文併記。提出先、提出方法は現在既に行われている方法による。

2．三宅島の観測体制について(気象庁)

補正予算で三宅島の観測強化の予算が確保され、観測体制の強化を作業中。地震計と空振計とGPSと傾斜計を1か所ごとにセットで3点整備する計画。既設の地震計A点と合わせて観測網を構成する。その他関係機関の方々にご協力いただき、オンラインでデータを収集し気象庁で24時間体制で監視する方向で相談中。これらの機関とはデータを共有化し必要なものは相互交換する体制を構築してゆきたい。

3．IAVCEIのデータベースについて

このことについて、以下のとおり報告・提案があった。

・IAVCEI2000年の国際火山会議が、インドネシアのバリ島で開催される。会議の直後に、火山機器観測データベース作成の国際共同計画のワークショップが予定されており、内容について下準備をしたいとのメッセージが届いている。日本は大量にデータを蓄積しているので、日本の貢献が非常に重要。日本だけでなく、世界の火山の先進国としての国際貢献の観点できちんと対応してくれる人の推薦を求められている。

・国際的にどういう動きをするか見ながらやるということと、なるべくバリの会議のワークショップに参加して、その結果をフィードバックした上で、どのように対応していくのかというプランニングをして行く必要があるのではないか。

・気象庁および大学棟関係機関を含め、かなりのメンバーを集めないと実現しない。

・火山噴火予知連絡会としても前向きで取り組んで行くということにしたい。

4．岩手山の統一見解と全国の火山活動評価について

事務局から今回の統一見解案および全国の火山活動の評価案の作成に当たっての考え方について説明を行った。また、統一見解を発表するとき臨時火山情報で発表することについて、若干議論があった（統一見解発表時の臨時火山情報と本来の臨時火山情報は重みが違うのか、また、活動が横這い状態および低下、終息時は臨時火山情報でよいのか等)。